

注 意 報

茨城県病害虫防除所

令和4年5月27日

病害虫発生予察注意報 第2号

果樹を加害するチャバネアオカメムシの多発生が予測されます！

果樹園内への飛来に注意して下さい！

[発表の内容]

作物名 : 果樹類 (ナシ、カキ、リンゴ、ブドウ等)

害虫名 : チャバネアオカメムシ

発生量 : 多い

発生地域 : 県下全域

[発表の根拠]

- ① 本年2月中旬に県内42地点で行ったチャバネアオカメムシ成虫の越冬調査における、越冬数は、平年並~やや多く(本年値2.7頭、平年値2.2頭)、越冬地点率は平年よりやや高い(本年値67%、平年値40%)。
- ② 5月下旬現在、笠間市のサクラ果実におけるチャバネアオカメムシの生息数は平年より多い(図1)。
- ③ 5月下旬現在、県内ナシ調査圃場の被害果率(本年値0.03%、平年値0.01%)は平年よりやや高く、発生地点率(本年値10%、平年値1%)は平年より高い。
- ④ 5月第5半旬現在、かすみがうら市の果樹園内に設置した予察灯のチャバネアオカメムシ誘殺数は、平年より多く、誘殺時期はやや早い(図2)。

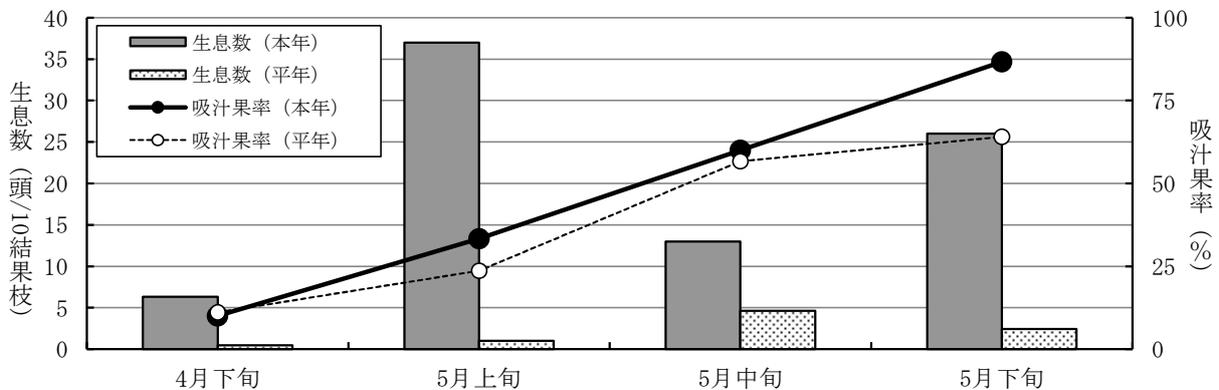


図1 サクラ樹におけるチャバネアオカメムシの生息数^{※1}および吸汁果率^{※2} (笠間市)

※1 ビーティング法によりサクラ10結果枝から得られた成虫数

※2 採集したサクラ果実30個中、カメムシの吸汁痕がある果実の割合

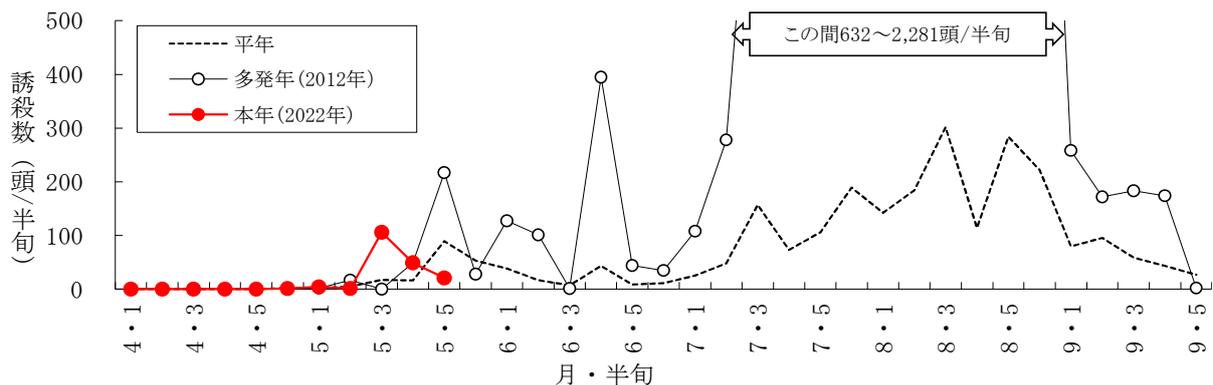


図2 チャバネアオカメムシの予察灯 (かすみがうら市) への誘殺数

[防除上注意すべき事項]

- ① 笠間市におけるカメムシ類に吸汁されたサクラ果実の割合は5月下旬で87%（平年64%）となっており、今後、餌を求めて果樹園へ飛来する可能性があるため注意する。
- ② 多目的防災網（6mm目または9mmクロス目等）はカメムシ類の園内への侵入を防ぐため、被害軽減に有効である。
- ③ カメムシ類は夜温が高くなると活動が活発になるため、果樹園への飛来に注意する。果樹園内でカメムシ類を確認した場合は、表1を参考に活動の鈍い早朝に薬剤防除を行う。
- ④ いずれの薬剤（表1）も、直接虫体にかかれば殺虫効果は高い。殺虫効果の持続期間はネオニコチノイド系薬剤、ピレスロイド系薬剤で5～10日程度、有機リン系薬剤で2～3日程度である。
- ⑤ ピレスロイド系薬剤は、カメムシ類に対して効果が高いが、天敵類に及ぼす影響も大きく、かえってハダニ類やカイガラムシ類の多発生を招くおそれがあるため注意する。

表1 カメムシ類に登録のある主な薬剤（令和4年5月20日現在）

作用機構分類（IRACコード） 系統名	薬剤名	ナシ	カキ	リンゴ	ブドウ
4 A ネオニコチノイド系	アクタラ顆粒水溶剤	○	○	○	
	アドマイヤー顆粒水和剤	○	○	○	
	アルバリン顆粒水溶剤/ スタークル顆粒水溶剤	○	○	○	○
	ダントツ水溶剤	○	○	○	○
	バリアード顆粒水和剤	○		○	
3 A ピレスロイド系	アグロスリン水和剤	○	○		
	スカウトフロアブル	○	○	○	
	テルスターフロアブル	○	○	○	
	ロディー水和剤	○	○	○	
	MR. ジョーカー水和剤	○	○	○	
1 B 有機リン系	スミチオン水和剤40	○	○	(○)	
2 B フェニルピラゾール系	キラップフロアブル		○	○	

注)・○：当該作物に農薬登録あり。

- ・スミチオン水和剤40は、リンゴ（旭種とその近縁種）では薬害が発生のおそれがある。
- ・ブドウでは、栽培状況により果粉溶脱や汚れのおそれがあるため、農薬ラベルに書かれた使用上の注意事項及び使用方法を必ず確認する。
- ・薬剤を散布する場合は、必ず農薬のラベルを確認し、農薬の使用基準を守るとともに、周囲への飛散（ドリフト）に十分注意する。



写真1 サクラ樹上のチャバネアオカメムシ



写真2 ナシを加害するチャバネアオカメムシ